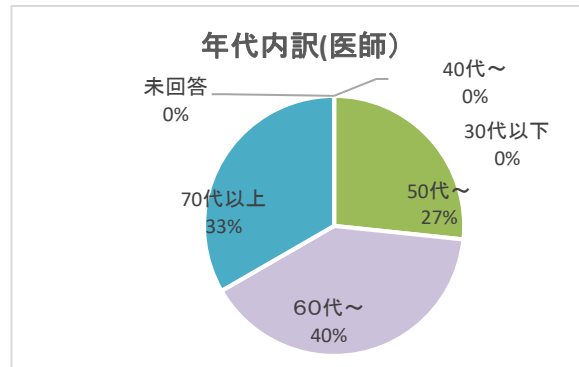


## 専門質問(医師)の結果

### <回答者の概況>

年代内訳	人数
30代以下	0
40代～	0
50代～	4
60代～	6
70代以上	5
未回答	0
計	15

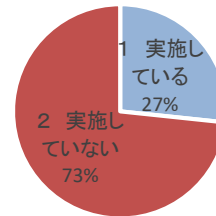


### 【日常の在宅診療について】

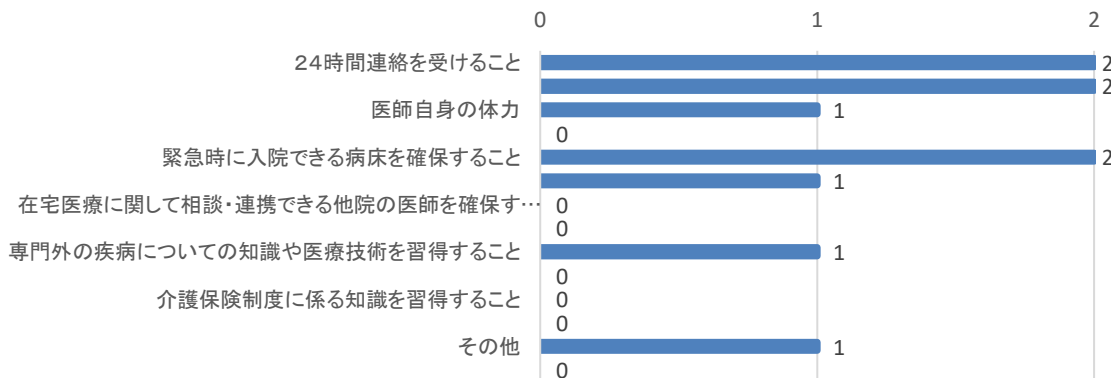
#### 【質問1】在宅診療(訪問診療・往診)を実施しています

実施している	4
実施していない	11
未回答	0

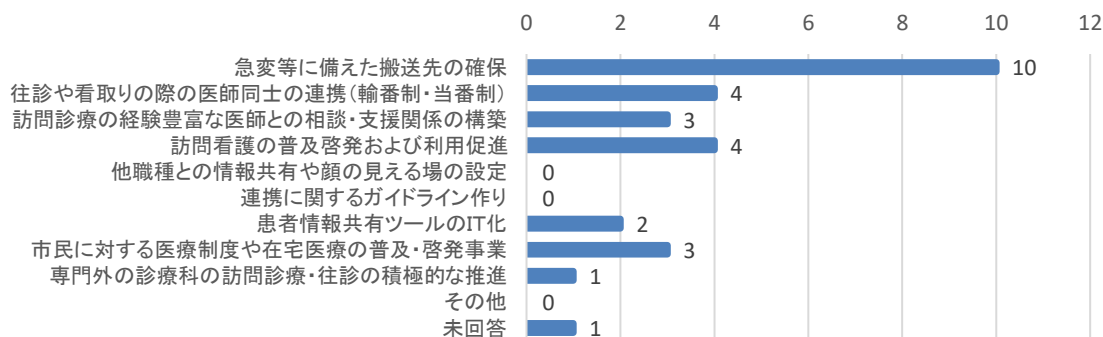
#### 【質問1】在宅診療の実施について



#### 【質問2】在宅診療を実施する上で大変なこと



#### 【質問3】座板診療を行う上でのバックアップに必要と考える取組

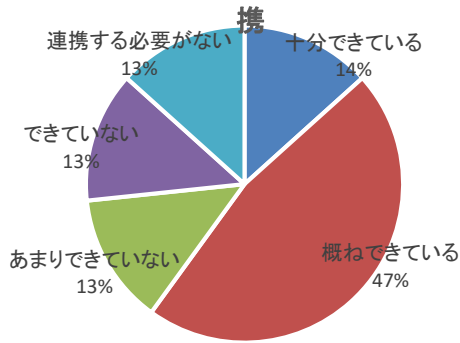


### <分析>

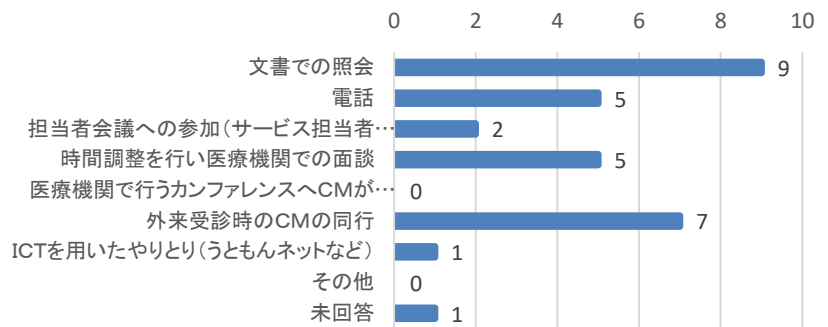
在宅診療を実施する上で大変なことは、前回同様に24時間対応となることや緊急時の対応が上位であり、バックアップを希望される内容についても急変時の搬送先の確保があがっている。在宅診療の担当医だけでなく、かかりつけ医や緊急時対応の医療機関との連携が進むと負担が軽減できるのではないかと考えられる。

また、訪問看護や在宅医療についての普及・啓発も意見として多いことから市民の在宅医療に関する認識も低いことが考えられ、市民向けの在宅医療に関する情報提供の方法を検討していく必要がある。

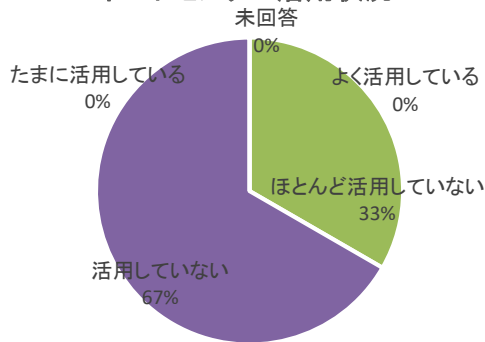
### 【質問4】介護支援専門員との連携



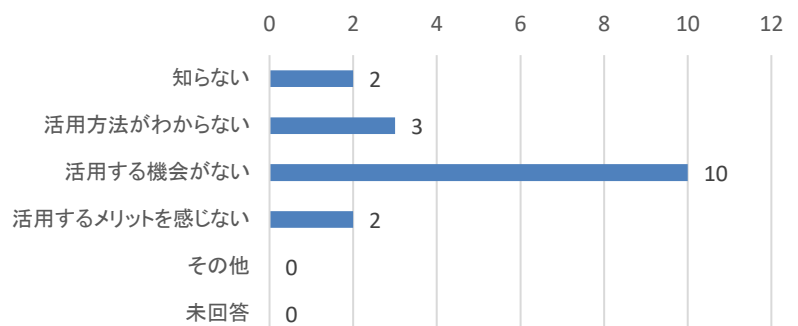
### 【質問5】介護支援専門員との望ましい連携方法



### 【質問6】宇城地域在宅威容サ ポートセンター活用状況

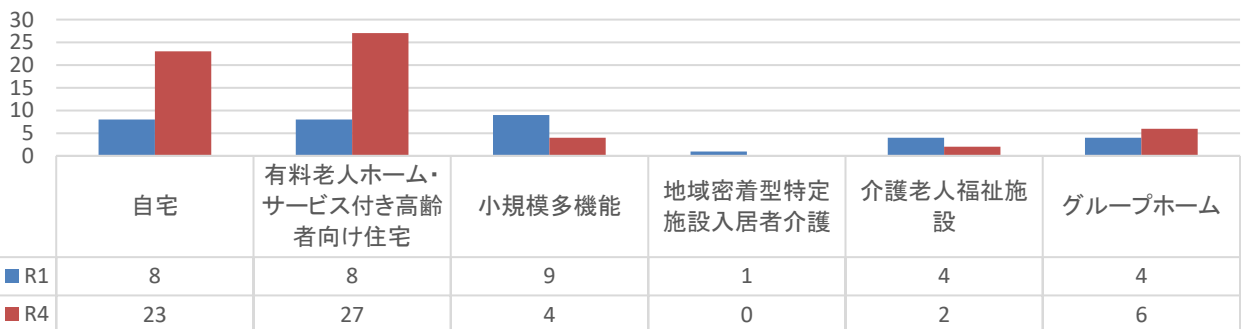


### 活用が進まない理由

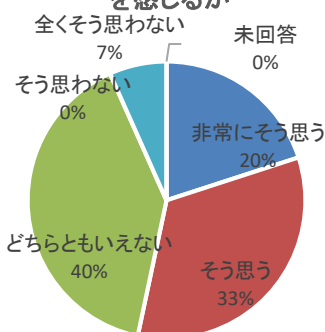


### 【在宅看取りについて】

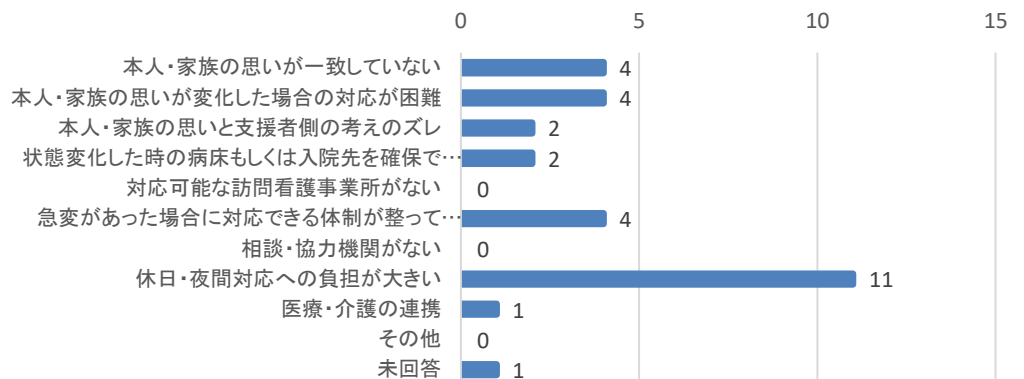
#### 【質問7】在宅看取りの件数



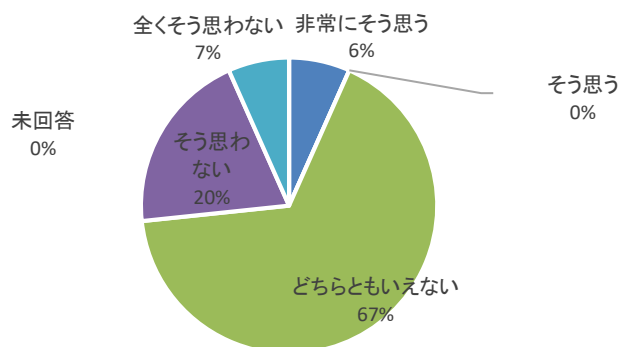
### 【質問8】在宅看取りを支援することに不安・負担を感じるか



### 【質問8-2】在宅看取りに不安を感じる理由



### 【質問9】今後在宅看取りを増やしていけるか



### 【質問9-2】在宅看取りを増やしていくことは難しいと考える理由

医師不足にて訪問診療のキャパを確保できない

看取り希望専門医集団(看取りのプロ医師)の設置が必要と思います。日常の仕事との掛け持ちは不可能と考え  
当診療所の診療状況より、在宅看取りは困難と思われる。

宇土市医師団の高齢者(65歳以上)が大半である。若年医師の新規参入なく在宅看取りケースは増えない。ほと  
んどの会員は午後6時以降の診療に無関心無反応である。

#### <分析>

在宅看取りの件数は前回調査時よりも増え、特に自宅や有料老人ホーム等、生活の場での看取りが増えてきていることから、市民への在宅看取りの認識も広がってきていることが考えられる。しかし、在宅診療を調査回答医師の約4分の1で行っていること、医師が不安に感じることに「休日、夜間対応への負担が大きい」が多いこと、自由記載から、現在在宅診療を行っている医師の負担が大きく、今後増やしていくためには、在宅診療実施医療機関の増加や協力医療機関の増加等、医師個人への負担を軽減できるような取り組みが必要である。